

グローバルにいがた

国際交流拠点から

from NY



大坪 理恵さん

＝長岡市出身＝

おせち囲み新年祝う

明けましておめでとうございます。ニューヨークの年末年始はロックフェラーセンターのツリーが点灯され、五番街を中心にとっても華やかです。仕事も少しのんびりできるのが、毎年元日にはおせちをはじめ手料理で、新潟県人会の皆さんや親しい米国人をわが家に招いて新年を祝うのが通例となっております。

私は現在、不動産のエージェントとして、日本人が多く住むニュージャージーで、ハードソン川越しにマンハッタンの景色を見ながら働いています。きっかけは娘たちが手が離れ、何か自分なりに生きがいを持ちたいと思つたことからでした。主人がニュージャージーとマンハッタンで不動産会社を経営しており、人と接することが好きで、私も向いている仕事ではないかと思つた。

私の仕事は、日本人が投資として購入した物件の管理や、駐在員の皆さまが住む物件探しのお手伝いをする事です。駐在員の方に物件を紹介した場合、引越し当初使われるであろうトイレットペーパーやゴミ袋、洗剤、箸、フォークなどをお渡ししています。また奥さまが来た際には買い物にお連れするような、女性ならではのきめ細かなサービスを心掛けています。

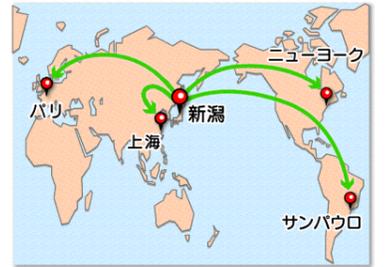
それは主人が不動産業を始める前、こちらで最初の家を購入した際に売主の奥さまが私たちの

ため皿やカブを置いていき、近所のスーパーや、知っておくと役立つような店に連れて行ってくれたことがもたらせています。その時にうれしく思つたこと、また感謝の気持ちを、今度は自分が不動産の仕事を通じてお伝えしたいと30年近く同じことを続けています。米国に来なければこの仕事をしていなかったと思います。若い頃客室乗務員や秘書を経験したことが思いの外役立つ、今では不動産のエージェントが私にとって一番やりがいのある仕事だと感じるようになりました。

さて米国では20日、主人のゴルフ仲間だったトナルド・トランプ氏が第45代大統領に就任しました。これまでとは全く異なる、型破りな大統領の出現に期待と不安を持ちながら今年1年を過ごすことになりそうです。

(大坪さんは1950年生まれ。夫はニューヨーク新潟県人会会長の大坪賢次さんです)

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をレポートしてもらい、毎月紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



自宅に親しい人を招き、おせち料理を囲んで新年を祝う恒例の集まり

from

ブラジル



鈴木 雅夫さん

＝サンパウロ新聞社長＝

夢の跡残るアマゾン



80年前に米国から渡ってきた技術者の住居として使われていた住宅。今は地元の人たちが住んでいる

約80年前、米国の自動車メーカーフォードの創設者ヘンリーフォードがアマゾンの原生林に200万畝の土地をブラジル政府から払い下げを受け、一帯を開墾した。自動車に欠かせないのがタイヤ。その原料となるゴムは19世紀にはアマソンの特産品だったが、20世紀に入り東南アジアにゴムが持ち出され、植林が進んだことでアマゾンのゴム産業は衰退した。ところが、東南アジアは欧米各国や日本が覇権を争い、戦争突入の不安定な状態となつていった。

そこでフォードは、ゴムの木をアマゾンに植え、安定供給しようと考えた。アマゾン中流の都市サンタレンから80キロ南下した所に100万畝、さらに約100キロ南下した原生林の中に「フォードランジア」と名付けて同じく100万畝を開墾した。

フォードはこの2カ所の原生林を基盤の目的に区画整理し、400万本を植えた。上下水道や電話まで整備し、米国からの駐在員や技術者、労働者の住居、病院まで建設した。そして、アマゾン川の対岸に、ゴムを輸送するための飛行場まで建設し、ゴムの一大生産地建設に乗り出した。

しかし、軌道に乗る前に第二次世界大戦は終わり、1946年、フォードは事業を断念。土地はブラジル政府に返還された。その後、ほとんどの木は切り払われたが、最初に建設された家屋は今も使われ、病院だった建物は市役所庁舎となっている。

80年以上も前に原生林の中にこつぜんとしてできた計画都市。その壮大な計画を立案し実行に移した米国人の発想の豊かさと実行力に驚かされる。こうした桁外れのプロジェクトがアマゾンでいくつも行われてきたことは、あまり知られていない。アマゾンは大自然だけではなく、人間の壮大な夢の実験場でもあったのだ。

(鈴木さんは新潟県人会員で、母が三条市出身です)

新潟の皆さんは寒さに凍える毎日を送っているのではないだろうか。季節が反対のブラジルは真夏。今回は、その中でも赤道直下の気温40度を超えるアマソンの話をしたい。

約80年前、米国の自動車メーカーフォードの創設者ヘンリーフォードがアマゾンの原生林に200万畝の土地をブラジル政府から払い下げを受け、一帯を開墾した。自動車に欠かせないのがタイヤ。その原料となるゴムは19世紀にはアマソンの特産品だったが、20世紀に入り東南アジアにゴムが持ち出され、植林が進んだことでアマゾンのゴム産業は衰退した。ところが、東南アジアは欧米各国や日本が覇権を争い、戦争突入の不安定な状態となつていった。

そこでフォードは、ゴムの木をアマゾンに植え、安定供給しようと考えた。アマゾン中流の都市サンタレンから80キロ南下した所に100万畝、さらに約100キロ南下した原生林の中に「フォードランジア」と名付けて同じく100万畝を開墾した。

フォードはこの2カ所の原生林を基盤の目的に区画整理し、400万本を植えた。上下水道や電話まで整備し、米国からの駐在員や技術者、労働者の住居、病院まで建設した。そして、アマゾン川の対岸に、ゴムを輸送するための飛行場まで建設し、ゴムの一大生産地建設に乗り出した。

しかし、軌道に乗る前に第二次世界大戦は終わり、1946年、フォードは事業を断念。土地はブラジル政府に返還された。その後、ほとんどの木は切り払われたが、最初に建設された家屋は今も使われ、病院だった建物は市役所庁舎となっている。

80年以上も前に原生林の中にこつぜんとしてできた計画都市。その壮大な計画を立案し実行に移した米国人の発想の豊かさと実行力に驚かされる。こうした桁外れのプロジェクトがアマゾンでいくつも行われてきたことは、あまり知られていない。アマゾンは大自然だけではなく、人間の壮大な夢の実験場でもあったのだ。

(鈴木さんは新潟県人会員で、母が三条市出身です)

from

パリ



滝口 真弓さん

＝新潟田市出身＝

冬の街角に格別の味

夏の間は午後10時ごろまで明るかったパリも、今は別世界。冬は特に夜が長い。冬至の時は日の出が午前8時41分、日の入りは午後4時56分。夏至の時に比べると、日照時間はおよそ半分しかありません。今朝も街灯が照らす歩道を会社や学校へ向かう人たちがコートや傘を立て、白い息を吐きながら早足で駆け抜けていきます。

暗く長い、パリの冬。夜、町中を歩く人の楽しさはイルミネーション。特にクリスマスシーズンは、どの店も美しくデコレーションを競う素晴らしいデコレーションをします。昔ながらの存じのシャンゼリゼ大通りには、パリ三大デパート、ボンマルシェ、エルフランタン、そしてキャリィラファイエットの競演は毎年恒例で、ショーウィンドウを見ようとする子どもたちや大人で人垣ができます。

この時期のパリの風物で忘れられないのは、生がき、焼き栗のスタンドです。街角のスーパーの前、カフェやレストランの前、あちらこちらに運送の力かきかきで売られています。中には積まれ、売られています。中にはその場で殻を開けてもらい、食べている人もいます。ちなみにフランスのカキには、ミユスカデという辛口の白ワインがよく合う。焼き栗は、日本のいわゆる天津甘栗とは違って自然の甘みだけですが、寒い中パンショ(ホットワイン)と熱々の焼き栗を頬張るのは格別の気分です。

新年を迎え、1月6日はエピファニー(公現祭)。クリスマスの誕生祝いに東方の三博士が来訪したことを記念する日です。この日までクリスマスは続き、人々はガレット・デ・ロワ(王様のお菓子)という名前のアーモンドクリーム入りパイを食べ、新年を占います。パイの中には一つだけフェーブという陶器の人形が隠されています。自分に配られたパイにフェーブが入っていた人は、紙製の金色の王冠をかぶり、その日一日王様になるのです。そして街角のウィンドーは、着る春の装いに模様替えし、長く暗いパリの冬が終わっていきます。

(滝口さんは1960年生まれ。夫の転勤に伴い2011年からパリに住む主婦です)



パリの冬を彩るシャンゼリゼ大通りのイルミネーション

from

上海



佐藤 辰幸さん

＝阿賀野市出身＝

各地の美食街お薦め



さまざまな食材が量り売りにされている市場

私が中国と関わりを持つようになって15年近くたちます。慣れたつもりでも、今も政治・文化の違いに戸惑いと面白さを感じるものがよくあります。諦めを知り、いかに中国社会になじめるか、俗に言う郷に入れば郷に従え的な思考を持つことが大切です。

私の生活の場は(仕事もですが)、上海から80キロ離れた平湖市という、外資系主体の工業区があり多くの日系企業が進出しているまちです。よく市場へ買い物に出かけますが、品物は全て量り売りで価格交渉は当たり前、言い値で買う人は皆無です。種類も豊富で、豚の脳みそなど日本では目にすることがない食材も並んでおり、中にはどうにも調理するのが想像できないものもあります。

食べ物に興味があり、中国の食文化を体験したい方にお薦めなのが、各都市に必ずあるといっている「美食街」です(どこでも同じ名称ですが、大きい都市では複数箇所あり、それぞれ規模や衛生環境が異なります)。必ず印象に残る体験ができるはずですよ。

買い物をする際に厄介なのが、やはり言葉の壁です。文化大革命の影響から60歳以上の中国人は半数近くが非識字者といわれています。標準語(北京語)を話せない人も多く、方言の多さは想像を絶し、中国人同士でも地域が異なる話を理解できないそうです。そんな環境だから自己表現をするために、とにかく大声で、身ぶり手ぶりを交えて主張し合うのかもありません。私も大声で話すことがよくあります。普通の話し方ではまともな交渉も、大声で話したら何となく成立。そしていざ支払いとなると、またひと悶着、といったこともあります。

一方で、この地域には日本語と似た発音の言葉があります。特に数字の2、3、6は日本語と同じように聞こえます。ほかにもイントネーションが非常に似通っている言葉があり、両国の深い関わりを感じます。

中国社会には世代間、地域間のコミュニケーションを妨げている言葉の壁が存在し、これが国民性形成に影響しているのとは考えさせられます。ただ、言葉の壁は次第に取り除かれてきており、近い将来また違った中国を目にすることができるとも思っています。

(佐藤さんは1959年生まれ。会社員です)

私が中国と関わりを持つようになって15年近くたちます。慣れたつもりでも、今も政治・文化の違いに戸惑いと面白さを感じるものがよくあります。諦めを知り、いかに中国社会になじめるか、俗に言う郷に入れば郷に従え的な思考を持つことが大切です。

私の生活の場は(仕事もですが)、上海から80キロ離れた平湖市という、外資系主体の工業区があり多くの日系企業が進出しているまちです。よく市場へ買い物に出かけますが、品物は全て量り売りで価格交渉は当たり前、言い値で買う人は皆無です。種類も豊富で、豚の脳みそなど日本では目にすることがない食材も並んでおり、中にはどうにも調理するのが想像できないものもあります。

食べ物に興味があり、中国の食文化を体験したい方にお薦めなのが、各都市に必ずあるといっている「美食街」です(どこでも同じ名称ですが、大きい都市では複数箇所あり、それぞれ規模や衛生環境が異なります)。必ず印象に残る体験ができるはずですよ。

買い物をする際に厄介なのが、やはり言葉の壁です。文化大革命の影響から60歳以上の中国人は半数近くが非識字者といわれています。標準語(北京語)を話せない人も多く、方言の多さは想像を絶し、中国人同士でも地域が異なる話を理解できないそうです。そんな環境だから自己表現をするために、とにかく大声で、身ぶり手ぶりを交えて主張し合うのかもありません。私も大声で話すことがよくあります。普通の話し方ではまともな交渉も、大声で話したら何となく成立。そしていざ支払いとなると、またひと悶着、といったこともあります。

一方で、この地域には日本語と似た発音の言葉があります。特に数字の2、3、6は日本語と同じように聞こえます。ほかにもイントネーションが非常に似通っている言葉があり、両国の深い関わりを感じます。

中国社会には世代間、地域間のコミュニケーションを妨げている言葉の壁が存在し、これが国民性形成に影響しているのとは考えさせられます。ただ、言葉の壁は次第に取り除かれてきており、近い将来また違った中国を目にすることができるとも思っています。

(佐藤さんは1959年生まれ。会社員です)

ジャズシンガー 綾戸智恵とN響メンバーによるスーパーセッション!

15:00開演(14:30開場)

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

2017年 3/5(日) 全席指定 6,000円

販売中

【チケット取り扱い】

- インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)
- りゅーとぴあ
- 新潟伊勢丹
- 文信堂書店CoCoLo万代(新潟駅ビル地下)
- トップトラベル新潟(DeKKY401内)
- 文信堂書店長岡店
- セブン-イレブン(セブンチケット)
- 新潟県民会館

※NIC新潟日報販売店でも取り次ぎできます。 主催: NST 共催: 新潟日报社

問い合わせ先: NST イベントインフォメーション 025-249-8878 (平日10:00~18:00)

史佳 Fumiyoashi 二代目高橋竹山 線線響々 Sensen-Kyokyo

~初代 高橋竹山との対峙~

2017.1.28(土) りゅーとぴあ・コンサートホール

13:00開演(12:30開場) 新潟市中央区一番堀通町3-2

前売券 3,000円 当日 3,500円/全席自由

※未就学児入場不可 車いす席はインフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)のみで取り扱います。

【特別ゲスト】二代目高橋竹山(三味線) with 小田朋美(ピアノ)

【賛助出演】新潟高橋村山会(オープニング50人大合奏)

【主催】新潟日报社

【企画・制作】OFFICE project

プレイガイド インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)・りゅーとぴあ・新潟伊勢丹・文信堂CoCoLo万代(新潟駅地下)・トップトラベル新潟(DeKKY401内)・セブン-イレブン ※NIC新潟日報販売店でも取り次ぎできます

【お問い合わせ】新潟日报社ふれあい事業部 / TEL.025-385-7470(平日9:30~17:30)

【史佳オフィシャルサイト】 www.shamisenplayer.com